

合併20年の軌跡

平成18年に燕市・吉田町・分水町が一つになり、「人と自然と産業が調和しながら進化するまち」を将来像に、新たな歩みを始めた燕市は、今年、合併20周年という節目を迎えました。

この20年という月日は、

市民の皆さんとともに歩み、積み重ねてきた確かな足跡です。今日を迎えることができたのは、このまちを愛し、

礎を築いてくださった先人たちをはじめ、地域や産業を支えてこられた

多くの人々の情熱と努力があったからにほかなりません。

この記念すべき節目を、

これまでの歩みに感謝し、

次の20年、そして更なる未来への希望を胸に、

世代を超えて手を取り合い、

新たな明日へ踏み出す

「はじまりの場所」としていきましょう。



きららん

燕市のものづくり

燕市の確かな技術は、キッチンツールやカトラリーをはじめとする多彩な金属製品として結実し、国内外から高い評価を受けてきました。その原動力となっているのが、多様な専門技術を持つ小規模事業者が集積し、産地全体が一つの会社のように機能する「横のつながり」です。合併からの20年、高付加価値化への挑戦や、産官学が連携する「燕市医療機器研究会」による次世代産業の創出、「つばめ産学協創スクエア」や「地域の人事部」の始動など、人と技術をつなぐ取り組みが進められてきました。伝統を礎に、変化を恐れず進化を続ける姿勢こそが、燕市が世界に誇るものづくりのプライドです。



4月 April

●ふるさと燕応援寄附金の寄附受入額（平成26年度実績）が1億円に到達し県内1位となる（以降、7年連続県内1位）

●カンカンBOOK事業が始動

5月 May

●「市民交流センター」がオープン

2015

（平成27年）

2016

（平成28年）

3月 March

●合併10周年記念式典を挙行政



2014

（平成26年）

4月 April

●ESCOを活用した防犯灯LED化

6月 June

●燕市公式Twitter(X)開設

8月 August

●「西部学校給食センター」が完成

9月 September

●燕・弥彦地域定住自立圏形成協定を締結

10月 October

●燕市公式YouTube 開設

2013

（平成25年）

水道の塔



6月 June

●「長善館学習塾」開講

●「水道の塔」が国の登録有形文化財に

●「若者によるまちづくりの場」として「つばめ若者会議キック・オフ・ミーティング」を開催

●燕市PR大使事業を開始



●「Jack & Betty 教室」開講

2011

（平成23年）

5月 May

●東京ヤクルトスワローズとの交流・連携事業がスタート

4月 April

●「燕市医療機器産業参入勉強会」立ち上げ。後に「燕市医療機器研究会」に改名

3月 March

●東日本大震災が発生、南相馬市などから避難者を受入れ

2月 February

●燕市観光PRキャラクター「きららん」が誕生



2012

（平成24年）

3月 March

●「つばめっ子かるた」、「燕ジュニア検定問題集」が完成

8月 August

●メガソーラー発電所（メガソーラー-TSUBAMEsite）稼働

10月 October

●「広報つばめ子ども版」創刊号を発行

●第1回「ツバメルシェ」を開催



「広報つばめ子ども版」



2010

（平成22年）

4月 April

●鈴木力市長が就任

6月 June

●「飛燕舞」を商標登録し、同年秋から販売開始

10月 October

●玉川宣夫さんが名誉市民に（平成22年9月 人間国宝に認定）



2009

（平成21年）

9月 September

●トキメキ新潟国体・トキメキ新潟大会が開催～燕市がアーチェリー、空手、グランドソフトボールの会場に～



2008

（平成20年）

4月 April

●合併の効果を最大限発揮するとともに、本市の地域特性を活かした発展を目指し、中長期的視点から新しいまちづくりを進める『燕市総合計画』がスタート

11月 November

●産業史料館新館オープン



2007

（平成19年）

10月 October

●循環バス「スワロー号」が運行開始



スワロー号

2006

（平成18年）

3月 March

●新「燕市」が誕生～燕市、吉田町、分水町が合併～

4月 April

●小林清初代燕市長が就任

8月 August

●合併記念式典を挙行政

